外部評価　様式　　〔第三者評価委員が参加していない学校・幼稚園用〕

令和元年度　中央幼稚園　外部評価報告書
評価委員：稲生憲一委員長、豊田一成委員、鈴木英子委員、髙安正美委員、片山英治委員 塩部まゆみ委員、鈴木一弥委員 報告書作成者：鈴木一弥委員
評価時期　　令和２年２月
１　重点目標の評価 重点目標１「主体的に学び行動する基礎の育成」について 評価項目①の個に応じた指導についても、評価項目②の異年齢交流活動についても保護者の評価は肯定的な評価が９６％以上と多いが、教員の評価では、１００％の肯定的な評価のうち、「十分達成している」がいなかった。園内での園児に関する情報共有のやり方を工夫するとともに、小学校との併設であることを生かした交流活動は今後も充実させていってほしい。 重点目標２「豊かな人間性の基板の育成」について 評価項目①の道徳性については、保護者の評価でも教員の評価でも「あまりあてはまらない」「改善を要する」が他の項目よりも多くなっている。指導の難しさと成果がみられにくいことが考えられる。今後も着実な指導をお願いしたい。 評価項目②の体験活動、評価項目③の個に応じたかかわりと支援については、保護者の肯定的な評価が多い。都心に位置する幼稚園でもあるので、体験活動の計画は難しい面もあると思うが、工夫できることがあればぜひ実施してほしい。 重点目標３「健康な体力・安全な生活の素地の育成」について 評価項目①の体を動かす楽しさを実感させることについては、教員の評価で「改善を要する」が６７％と多くなっている。園の自己評価でも触れられていたように、発達や実態に応じた活動や環境を工夫して取り組んでほしい。 評価項目②の安全な生活については、保護者から１００％の肯定的評価があったようにこれからも安全な生活が送れるような取組をお願いしたい。 ２　今後の改善に向けた意見 教員の働き方改革が叫ばれる中、あれもこれもやっていこうとするのは難しいと考える。重点を絞り、保護者にも理解を求めながら着実に改善を進めていってもらいたい。 ３　その他の意見 子供の数が増えるとともに、地域に新しい世帯が増えてきている。町会でも新しい世帯をどのように取り込んでいくのかが課題となっている。学校と連携を深めながら地域の発展も考えていく必要がある。

＊　３月に各学校のホームページで公表していきます。